

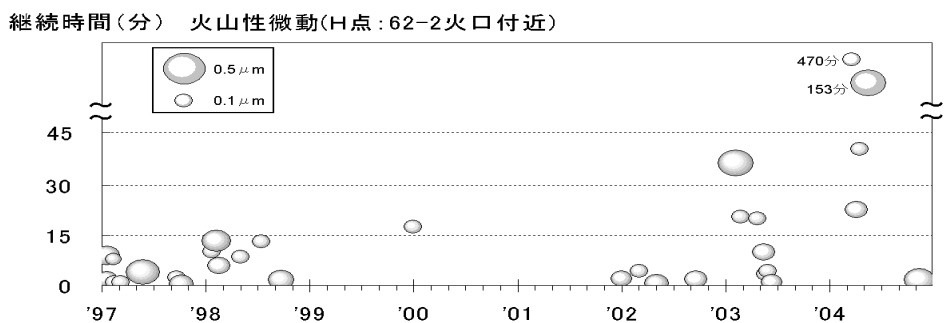
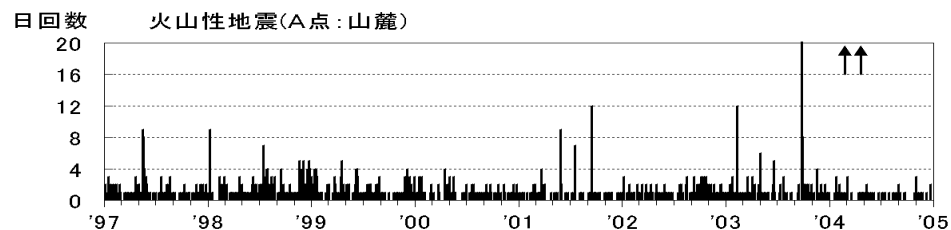
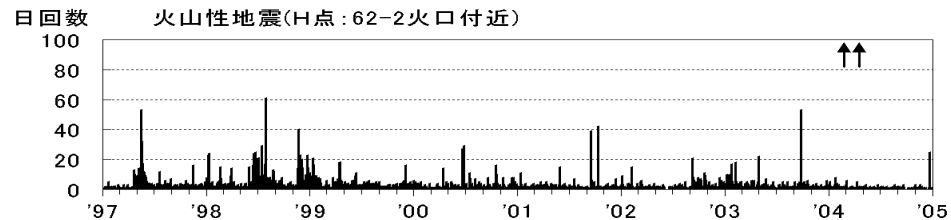
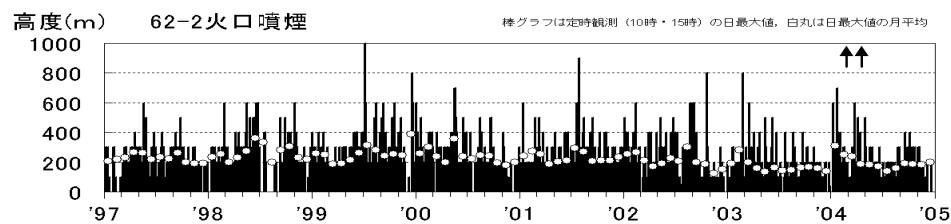
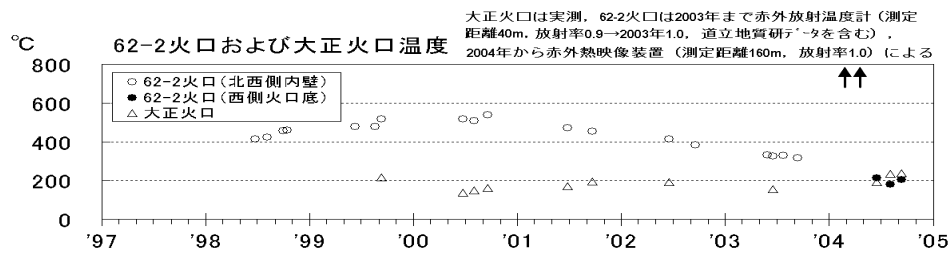
十勝岳

1 概況

62-2 火口は噴煙活動が活発で高温の状態が続いていると推定され、火山活動は引き続きやや活発な状態です。今後も、2月と4月に観測されたような火山灰混じりの有色噴煙が見られる可能性があります。

2 噴煙の状況

雲などのため見えない日も多くありましたが、62-2 火口では活発な噴煙活動が続いています。噴煙は白色で高さは火口縁上おおむね200mで経過しました。



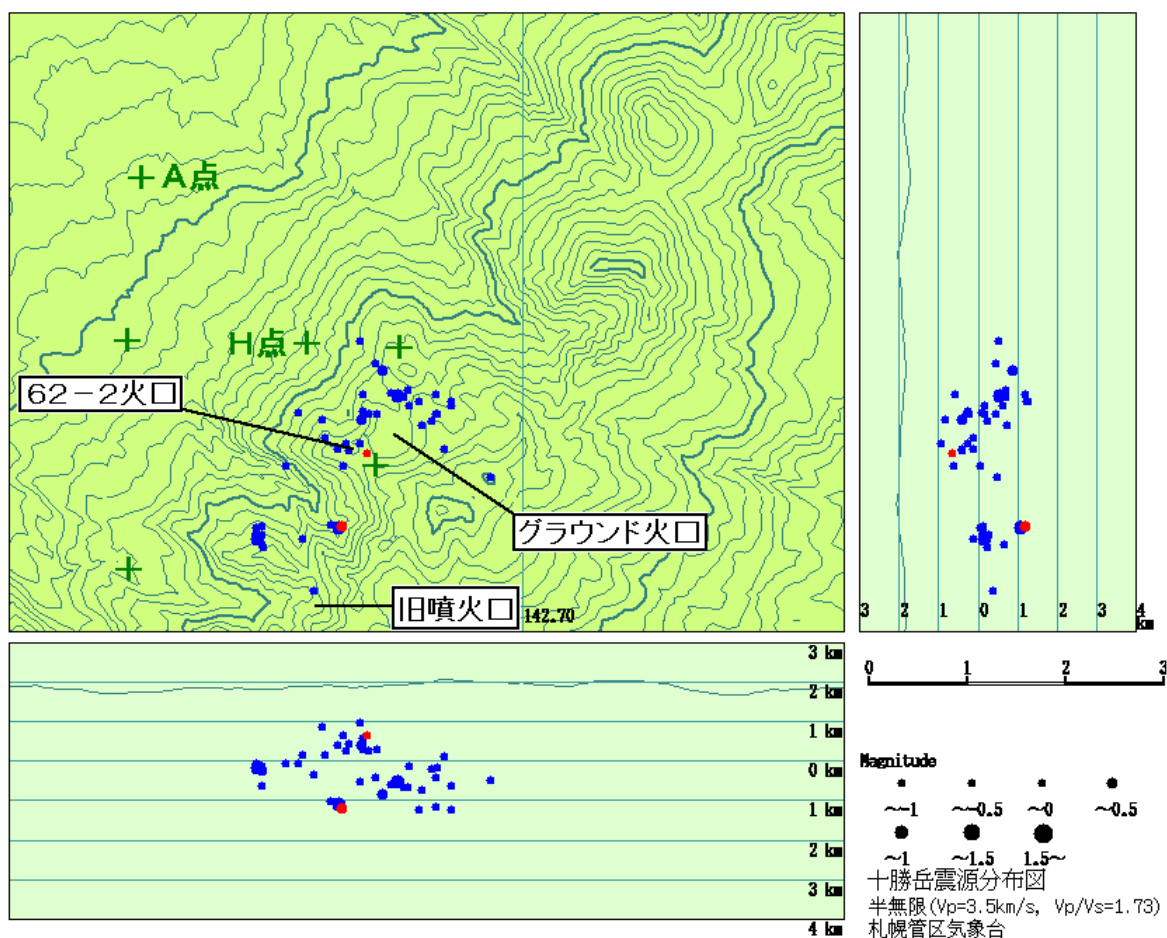
最近の火山活動経過図（1997年1月1日～2004年12月31日）↑印はごく小規模な噴火

3 地震および微動の発生状況

23日に62-2火口付近が震源と推定される地震が一時的にやや増加しました。いずれの地震も振幅は小さく、山麓のA点で計数基準に達する地震は2回でした。火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数（H点：火口付近の観測点 A点：山麓の観測点）

2004年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
地震回数H点	41	17	30	23	26	12	13	19	16	11	20	30
地震回数A点	7	6	5	5	7	2	4	6	3	3	7	4
微動回数H点	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0



十勝岳の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点）

赤丸は今期間（2004年12月1日～31日）に求まった震源を示しています。

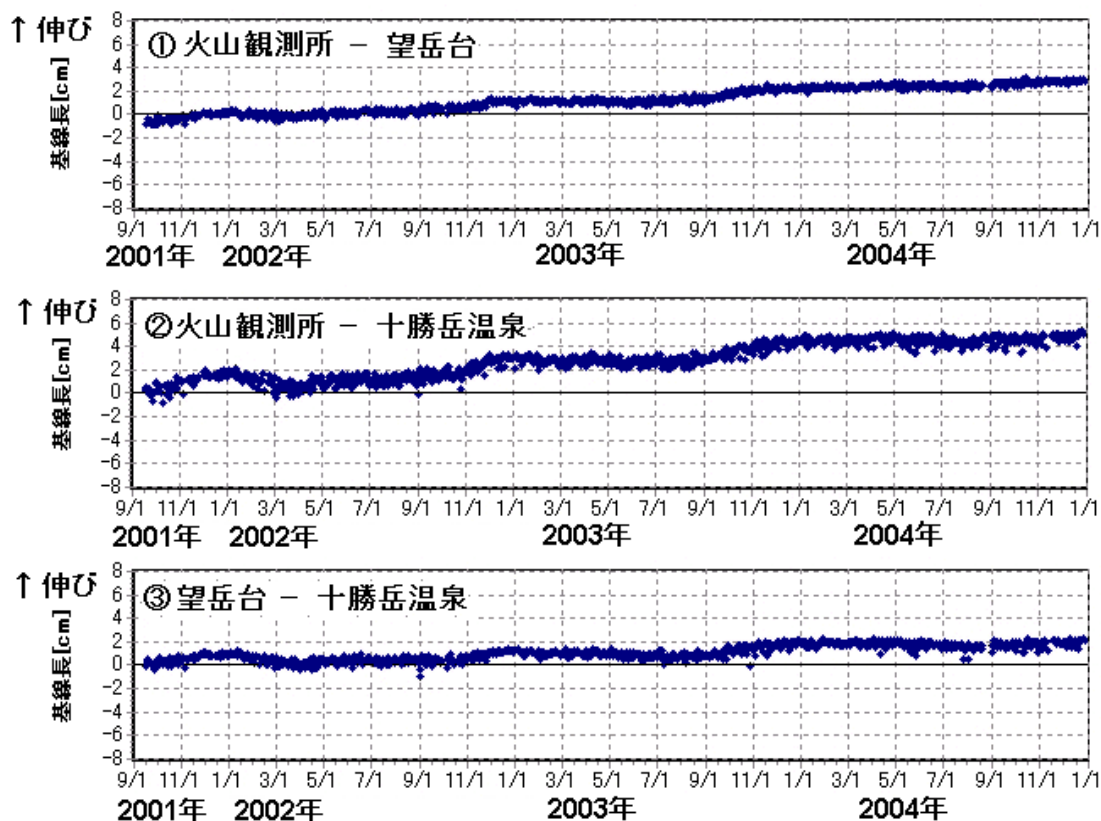
青丸は前期間までの11ヶ月間（2004年1月1日～11月30日）に求まった震源を示しています。

震源はグラウンド火口周辺と三段山～旧噴火口周辺の浅部（海拔付近）に集中しており、今期間の震源もこれらの領域内に分布しています。

12月23日に一時的に増加した地震はいずれも規模が小さく、求まった震源は1つでした。

4 地殻変動の状況

西麓でのGPS連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



基線長変化（2001年9月13日～2004年12月31日）

